（様式１）

令和８年度 学力向上全体計画

学校名	墨田区立立花吾嬬の森小学校
校長名	向井一郎

１　本校の学力に関する状況

（１） 墨田区学習状況調査結果から

成　　果	課　　題
・算数では、「知識・技能」が多くの学年で全国平均及び目標値を上回り、少人数指導や日常的な反復学習の成果が表れている。 ・第 2 学年は国語・算数ともに知識・技能、思考・判断・表現の全てで目標値を大きく上回り、本校で最も安定した成果を示した。特に国語の思考・判断・表現は目標値を 13 ポイント以上上回った。 ・第 3 学年は国語と算数で全ての観点が目標値を上回り、基礎学力の定着が順調に進んだ。特に国語の知識・技能は目標値を約 9 ポイント上回った。 ・第 4 学年は国語と社会で成果が見られ、特に国語は知識・技能、思考・判断・表現ともに高い水準にある。 ・第 5 学年は国語、算数の知識・技能は目標値を上回り、基礎的な学力は概ね定着している。 ・第 6 学年は算数の知識・技能、思考・判断・表現は目標値を上回った。	・今後も高い学習意欲と基礎学力を維持しながら、説明する力や書く力のさらなる向上を図りたい。（2 年） ・社会の思考・判断・表現は目標値をやや下回り、資料を読み取って考えをまとめる学習の充実が課題である。（3 年） ・算数の思考・判断・表現や理科の知識・技能が目標値を下回った。知識を活用して考えたり説明したりする活動を充実させ、今後の学力向上につなげる。（4 年） ・多くの項目で目標値との差が小さく、伸びの停滞も見られる。特に算数や理科では思考力を問う問題に課題があり、自分の考えを表現したり根拠を説明したりする学習を重点化する必要がある。（5 年） ・国語の「知識・技能」「思考・判断・表現」が全国平均を下回っており、高学年段階での読解力や記述力の向上が課題である。（６年） ・国語の知識・技能や社会の知識・技能、思考・判断・表現で目標値を下回っている。理科については両項目とも目標値を下回り、基礎事項の定着とともに、資料を根拠に考察し説明する力の育成が今後の重要な課題である。

◎以上のことから、本校で継続して取り組んできた「読むこと」を中心とした校内研究、授業終末における振り返り活動、算数科少人数指導及び ICT 活用が学力向上に一定の成果を上げていると考えられる。

（２）意識調査結果から

成　　果	課　　題
・友達や教師との関係を肯定的に捉えている児童が多い。「気持ちを分かってくれる友達がいる」は 5 年生 86.8%、6 年生 93.0%、「先生は気持ちを分かろうとしてくれる」は 4 年生 94.3%、6 年生 94.7%であり、安心して生活できる学校風土が形成されている。 ・将来の夢や目標をもっている児童は多く、5 年生 92.5%、6 年生 89.5%が肯定的に回答して	・「友達の意見を聞いて勉強がおもしろいと思う」は 3 年生 64.6%、4 年生 64.2%、6 年生 63.2%であり、全国平均を下回る学年が多い。対話的な学びを主体的な学びへつなげていくことが課題である。 ・「不思議だと思ったことを調べる」は 4 年生 43.4%、6 年生 38.6%にとどまっており、探究心や知的好奇心を高める必要がある。

いる。児童の将来への希望や目標意識は高い。 ・努力する意識も高く、「頑張っていることがある」と答えた児童は 5 年生 98.1%、6 年生 96.5%である。 ・学校や授業への関心も高く、「好きな教科や授業がある」は 5 年生 96.2%、6 年生 100%である。学習意欲そのものは高い水準にある。 ・本校児童は、友達や教師との良好な人間関係を基盤として、安心して学校生活を送ることができている。	・家庭学習や読書習慣には個人差が見られる。毎日学習している児童は各学年 25%～36%程度であり、読書をしない児童は 6 年生で 26.3%となっている。 ・本校児童は学校や授業に対する意欲は高いものの、自ら計画し、自ら追究する学習には課題が見られる。本校の課題は「学習意欲の不足」ではなく、「学習の主体性の向上」である

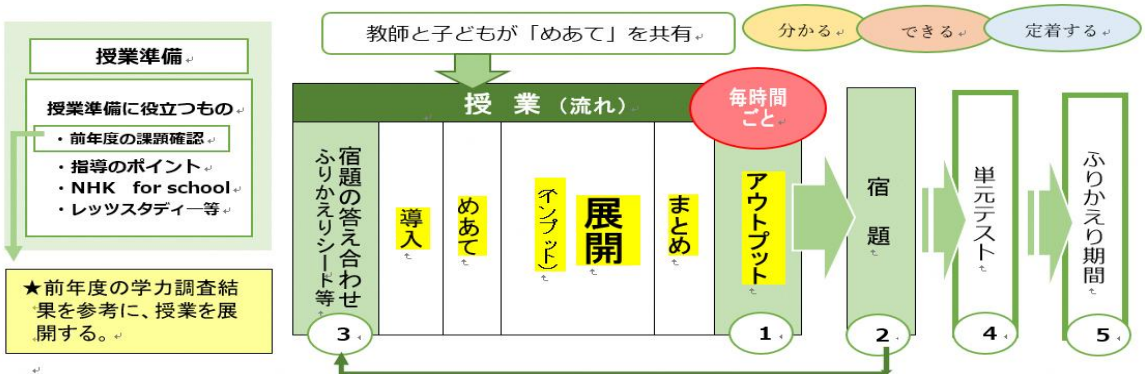
（3）墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成　果	課　題
・本校児童は学校生活への満足度が高く、好きな教科や授業をもつ児童も多い。安心して学ぶことのできる教育環境が整っている。 ・児童相互及び教師との人間関係は良好であり、互いを尊重しながら学校生活を送っている。トラブルがあっても関係を修復しようとする姿勢が見られ、安心感のある学校風土が形成されている。 ・学校図書館の整備や調べ学習の推進により、本に親しむ児童や情報を活用して学ぶ児童が増えている。 ・ICT 機器を活用した情報収集・発表活動が定着しつつあり、自分の考えを発信する場面が増えている。 ・「立吾しぐさ」を大切にする学校文化が定着し、人とのつながりを重視する児童が育っている	・読書習慣には個人差が大きく、高学年では読書に親しまない児童も一定数見られる。読書の量だけでなく質も高める必要がある。 ・学習した内容を振り返り、自ら学び直す習慣が十分に定着していない児童が見られる。 ・与えられた課題には取り組めるが、自ら問いを発見し追究する探究的な学習への意欲は十分ではない。 ・情報収集はできるものの、情報を比較・整理し、自分の考えとしてまとめたり発信したりする力には向上の余地がある。

2　本年度の学力向上に関する主な取組

（１）基礎・基本の定着

・「めあて」を明確にし、その達成度を確認できる授業を行う。
・授業終末でアウトプットの時間を確保し、学習内容の定着を図る。
・「ふりかえりシート」「問題データベース」「ミライシード」「テストパーク」等を活用して反復学習を充実させる。
・少人数指導や TT 指導（低学年）を活用し、個に応じたきめ細かな指導を進める。
・家庭学習を計画的に実施し、基礎・基本の確実な定着を図る。
・学力下位層の児童への個別支援を強化し、基礎学力の底上げを図る。
・校長及び管理職による授業観察を通して、授業改善を継続的に進める。



（２）「読むこと・書くこと・話すこと」の力を高め、言語への関心を高める

・読書活動の充実を図り、学校図書館を活用した調べ学習を推進する。
・朝学習等を活用し、読解力向上につながる学習に取り組む。
・各教科において、自分の考えを文章やノートにまとめる活動を充実させる。
・日記やスピーチ、意見文等を書く機会を継続的に設定する。
・話す活動や聞き合う活動を授業や学校生活の中で意図的に増やす。
・国語以外の教科においても語彙指導を充実させ、言葉への関心を高める。
・校内研究を通して読解力向上を目指した授業改善を継続する。

（３）主体的・対話的で深い学びの実現＝自ら学び自ら考える児童の育成

・「立吾しぐさ」を徹底し、特に聞く力・伝える力を育成する。
・各教科において、自分の考えを発表し交流する機会を積極的に設定する。
・話し合い活動を充実させ、友達との学び合いによって考えを深める経験を積ませる。
・ICT 機器を活用し、情報共有や意見交流を活発に行う。
・「なぜ」「どうして」を大切にした授業づくりを進め、児童の探究心を育てる。

・総合的な学習の時間や各教科において、自ら課題を見付け、調べ、まとめ、発表する学習活動を充実させる。
・学習の振り返りを充実させ、学びを自ら調整できる力を育成する。

３　「令和９年度 墨田区学習状況調査」の目標

・全学年・全教科において目標値を上回ることを目指す。
・日々の授業の中で振り返りの時間を確保し、学習内容の定着を図る。
・理科において観察・実験を充実させ、「思考・判断・表現」の向上を図る。
・国語では長文読解や記述問題への対応力を高め、自分の考えを文章で表現できる児童を育成する。
・社会科では資料やグラフ等を活用し、根拠をもって考察・表現する力を育成する。
・算数では多様な考えを交流し、自分の考えを説明できる力を高める。
・「不思議だと思ったことを自ら調べる」児童の割合を向上させ、探究的な学習を推進する。
・家庭学習や読書習慣の定着を図り、自律的に学び続ける児童を育成する。

◎本校は、友達や教師との良好な関係を基盤として学校生活を送っている。今後はその強みを生かし、「安心して学ぶ学校」から「主体的に学ぶ学校」への発展を目指す。

本校の課題は「学習意欲の不足」ではなく、「学習の主体性の向上」である。児童がもつ夢や目標、人とのつながりという強みを生かし、自ら考え、自ら学び、自ら行動する児童の育成を学校全体で推進していく。